

支援だより



県立金沢養護学校 連携・支援グループ 地域支援チーム 令和4年8月

いよいよ本格的な夏がやってきました。これからも暑い日が続きますが、水分補給をこまめにし、熱中症に気を付けながらこの夏を乗り越えていきましょう！

今回の支援だよりでは、金沢養護学校で実際に活用している教材を“支援の知恵袋”としてご紹介します。ご覧いただいた方にとってちょっとしたヒントになれば嬉しいです。

横浜水取沢分教室の支援の工夫

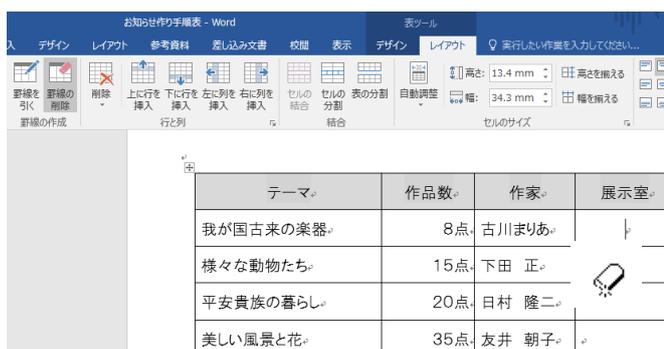
分教室では様々な実態がある中で、基本的に一斉授業を行っています。
その中での支援の工夫点を、いくつかご紹介します。



◎情報◎

パソコンでお知らせ文書を作るときに、画像で手順を示しています。右記は罫線の削除の手順です。

操作画面の画像と手順表を見ながら、生徒が自分で確認して進められるようにしています。



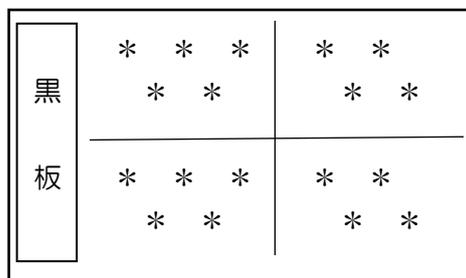
- ① 表の挿入
- ② 表をクリック→レイアウト→罫線の削除
- ③ 消したい罫線の上で消しゴムになったのを確認し、クリック

◎清掃◎

自在ぼうきを使って清掃するときには、テープを床に貼り、各自の清掃場所を区切って示しています。

また、床にはシュレッダーの紙くずやおがくずを撒いて、視覚的に分かりやすくして取り組んでいます。

教室を清掃するときにもテープで床を分割し、掃き残しがないようにそれぞれが意識して清掃しています。



肢体不自由教育部門の支援の工夫

肢体不自由教育部門には障害や病気などの理由によって体を自由に動かすことが難しい児童・生徒が在籍しています。例えば、筋緊張が強いことで体を大きく動かすことができず、運動機能（歩くことなど）やコミュニケーションをとることが難しかったり、体は大きく動かせるものの指先を使った小さな動きをすることが難しかったりと実態は様々です。今回はそのような子どもたちの教育活動で活用している“スイッチ”についてご紹介します。

“スイッチ”とは？

音声を録音・再生することができる意思伝達支援を目的とした ICT 機器です。例えば、あいさつや号令をかける時、1 回押すと「気を付け」、2 回目押すと「礼」など録音した順に再生でき、コミュニケーションの代替手段として使用しています。ボタン面が大きく、ほんの少しの力で操作することができるのがこの装置の大きな特徴で、操作ボタンが小さい物や、力をぎゅっと入れて押さなければいけないボタン（CD デッキやミキサーなど）に接続すると、スイッチのボタン面を押すだけで接続した電化製品の操作が可能になります。

さらにスイッチは、コミュニケーションや操作が楽にできるためだけではなく、本人たちから自発的な動きを引き出すことにも役立っています。緊張が強く、体の可動域が狭い児童・生徒にスイッチを提示すると、それに向かって腕を動かしたり、体の力を抜くことで腕の重みで手が下がり、手の下に置いてあるスイッチが押せたりすることもあります。スイッチの操作方法は一人ひとり異なりますが、小さな動きを大きな動きに変換できるので、児童・生徒からの発信場面で役立ちます。



これはビックステップバイステップという名前のスイッチで直径 13 センチ程度です。

近々、ホームページに新しい
地域支援のコーナーができます！

地域の学校の子どもたちの支援に役立つような教材・教具を掲載していく予定です。ご覧いただき、活用していただければ幸いです。

支援の知恵袋

